

私立大学情報教育協会
平成28年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

E-2班アウシよ老

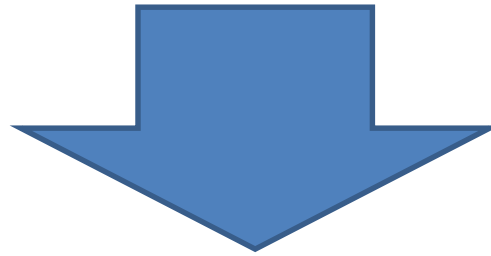
E-2班アウしょ老の紹介

アウトロー＼(^o^)/

～未来を考えるためには、今の自分を壊さねばならなかった～

+

本気で20年後を考えたら老けた

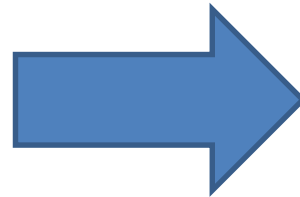
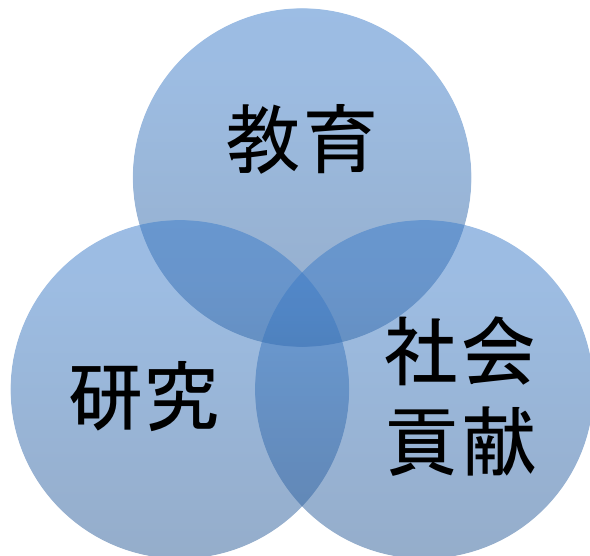


アウしょ老

発表テーマ

20年後の大学キャンパス

テーマ選定理由(1) 大学の役割



今後の大学には
社会貢献
の強化が求められる

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

- ・大学を取り巻く環境の変化が激しい
- ・伝統学生(18～22歳)が中心のビジネスモデル
- ・大学ごとの特色の違いが不明確で比較しにくい
- ・大学の一方的な「社会貢献」(イベントの開催etc.)

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

- ・新たなビジネスモデルの模索
- ・真の「社会貢献」を果たすための取り組み

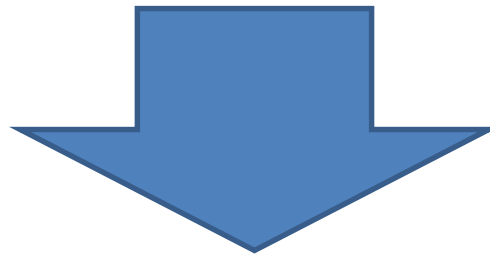
テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

【社会を取り巻く環境】: 超高齢化社会

・若者が老人(子ども)を支える社会

【大学を取り巻く環境】

・現在のビジネスモデルでは、大学として存続することが困難



20年後の大学キャンパスを考える

問題点の深堀と解決策の検討

●超少子高齢化社会

【問題点】大学の既存の施設が余る

【解決策】大学キャンパスの有効活用(保育園や老人ホームの誘致etc.)

●既存の大学の限界性

【問題点】閉鎖的な大学

【解決策】オープンスペース化(公開空地化)

●現在の大学教育

【問題点】授業で得た知識をアウトプットする場が少ない

【解決策】特色を活かしたイベントの開催

大学のイノベーションの提案

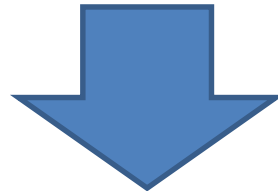
社会のオアシスとしての大学キャンパス

・何を問題として捉えたか

【社会の問題】少子高齢化／女性が働きづらい社会／核家族化etc.

・提案の概要

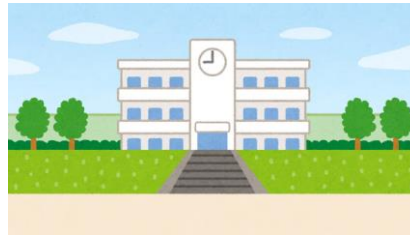
1. 社会的機能を集約した複合型キャンパスの実現(保育園、老人ホームetc.)
2. 人が集い、刺激を与え合う場としての大学キャンパスの創造



大学のキャンパスを有効活用して、地域社会の核となる大学へ

大学のイノベーションの提案

社会のオアシスとしての大学キャンパス



老人ホームの誘致

- 健康寿命の維持
- 学びの機会の保証

大学としてのメリット

- 様々な人と触れ合う中での学び
- 授業で得た知識をアウトプットする場
- 実用的な研究を行いやすい環境
- 伝統学生以外への教育機会の提供

保育園の誘致

- 働く女性を支援
- 大学という場への愛着

教員は、「研究者」から「教育者」へ
大学職員は、「事務職員」から「コーディネーター」へ

大学のイノベーションの提案

- ・これを実現するためのアプローチ
誰もが安全かつ気軽に行き来できるキャンパスの整備
「来たい」と思える仕掛け作り
- ・実現のためのハードルとICTの活用による打開策の提案
【金銭的問題】地域や企業と連携（Win-Winな関係に）
→戦略的情報を大学が提供 & 学生が活用できる商品（試供品etc.）の提供
- 【セキュリティ問題】
→キャンパス内の人の安全確保 & 危険情報の迅速な周知
- 【来るメリットがない】
→魅力的なイベントを実施し、参加者間が共有できるような開けたポータルシステムの活用